

令和元年度第2回 流山市環境審議会 議事要旨

日 時： 令和2年3月19日（木） 14時00分～15時30分

場 所： 流山市役所第2庁舎3階 301会議室

出席委員：

朽津和幸委員、金森有子委員、佐藤秀樹委員、須賀武司委員、新保國弘委員、和田登志子委員、横田輝雄委員、井上菊夫委員、高橋信行委員、今井泰彦委員

事務局：

田中環境部長、大島環境部次長兼環境政策課長、井原クリーンセンター所長、遠藤環境政策課長補佐、阿部環境政策課長補佐兼環境政策係長、羽下環境保全係長、房野主査、関根主任主事

傍聴者：なし

議 題：

- （ア）スケジュールについて
- （イ）基本的事項等の考え方について
- （ウ）その他

配 布 資 料：

資料1 地球温暖化対策実行計画（事務事業編）策定スケジュール

資料2 ストップ温暖化！流山市役所率先実行計画

※2016年策定の現行版

資料3 基本的事項等の考え方について

発言者	要旨
(議題ア) スケジュールについて	
事務局	資料 1 を説明。 事務事業編の改定について、来年度は審議会を 3 回行う。 6 月に旧計画の振返りと実績分析を行い、10 月に目標と取組を検討し、1 月に答申、3 月に公表としたい。
新保会長	事務局から説明があったが、意見や質問はあるか。
委員	特になし
新保会長	議題アについて、承認ということによろしいか
委員	異議なし
新保会長	このスケジュールについて、審議会として承認する。
(議題イ) 基本的事項等の考え方について (資料 3)	
事務局	資料 3 を説明。 基本的事項については、前回のスケジュールを踏襲し、計画期間と基準年度を 5 年スライドする案について、ご意見を伺いたい。
新保会長	事務局から説明があったが、意見や質問はあるか。
今井委員	流山市の温暖化対策については、市全体の計画があった上で、市役所や事業所の取組があり、一般市民がある。 全体を討議してから、その中での市役所の位置づけという話をしたほうが、理解しやすいのではないか。
事務局	事務事業編は市役所の努力の積み上げで結果が出るが、区域施策編 (市全体) となると指標が異なる。
和田 (登) 委員	計画の基本的事項の目的にある通り、市役所が率先して実行したうえで、市全体へ波及させていくということによろしいか。
事務局	そうである
今井委員	市全体と市役所の計画は、どこかでタイミングを合わせた方が、対策しやすいのではないか。2050 年に排出量ゼロを目指すのであれば、それをベースに市役所の計画を策定したほうが分かりやすい。

和田（登）委員	市役所ができないことを市民に求めることは困難であると思われるため、今までのペースがよいのではないか。
井上委員	計画の目的に、市役所は市内最大の事業所であり、波及効果が大きさを踏まえ、まずは市役所ができることを実施するとあり、本日も事務事業編の諮問を受けている。あえて間口を広げて論理する必要はないのではないか。
事務局	平成17年に策定した第一期計画では、事務事業編と区域施策編の両方が含まれていた。しかし、5年後の改定時に、計画を分けた経緯がある。市役所と市民の取組内容が異なるということと、同時に2本の計画を策定する労力を考慮してのことである。その際に、市役所が取組んだ後に市全体の施策を考えるという流れにした。
新保会長	第一期計画では市役所と市全体の計画を同時に作成したが、論点や母集団が異なるため、同時に議論することは困難であった。計画のタイミングを合わせることは理想ではあるが、現実には難しい。
横田委員	第3章「推進体制」にある職員研修の対象者と内容は。
事務局	各課にいる環境行動推進委員に対し、年度当初に研修を実施している。推進委員は毎年変更するように依頼し、環境配慮型の職員を増やしている。
横田委員	内部環境監査委員とは何か。
事務局	環境政策課の職員が、庁内の各課をローテーションで監査している。10年間エコアクション21を展開し、職員に考え方が浸透したため、令和元年度から独自マネジメントシステムに則って点検・評価を行っている。
横田委員	市役所の排出量は増えており、エコアクションは考えが浸透したからといって終わらせるものではない。独自マネジメントシステムに変更したのであれば、内部環境監査責任者が重責をもって取り組んでほしい。
佐藤委員	外部委員とは、どのような人か。
事務局	本審議会の金森委員と和田（登）委員である。

佐藤委員	第一章「背景」に、SDGSの視点も取り入れてほしい。目標13に「気候変動に具体的な対策を」とある。
事務局	上位計画である総合計画には、SDGSの視点を取り入れている。事務事業編についても、それを受けた形で反映させていく。
事務局	総合計画では、展開する各施策においてSDGSの視点を位置づけ、総合計画で検証を行う。本来のSDGSの手法とは異なるが、SDGSを意識しながら運用する。
井上委員	諮問には素案とあるが、第4期の計画を白紙の状態から改定するということか。
事務局	そうである
高橋委員	白紙から全ての内容を議論するには時間的な制約があるため、前回からの変化を事務局の方で整理するなど、的を絞って議論をしてはどうか。
井上委員	排出量の割合では、廃棄物焼却に基づく排出が多いため、ここに重点を置いてはどうか。電気は電力会社が排出量を決めることであるし、燃料の性能や公用車の走行距離は大きく変えられない。廃棄物焼却に基づく排出を減らすには、一世帯当たりのゴミの削減、焼却炉の性能向上に集約すると考える。
田中部長	廃棄物の関係については廃棄物対策審議会があり、一般廃棄物処理基本計画の策定の際に、一世帯当たりのゴミの削減について議論をした。廃棄物の割合は大きいですが、廃棄物の話になると廃棄物対策審議会の議論に入ってしまうため、環境審議会では廃棄物以外の取組についてご意見をいただきたい。
井上委員	焼却の方式などミクロの話は本審議会にはなじまないが、削減の話になれば、事務事業の削減の中では最も可能性が高い部分であるので、議論から外せないのではないかと。
事務局	事務事業編の対象施設から廃棄物処理施設を分離することを検討したが、排出割合が大きいと合わせて審議することとした。市職員の努力が及ばない部分が多いと痛し

	<p>痒しではある。</p> <p>2050年排出量ゼロをゴールとすると、従前計画の数値を替えただけでは達成できるものではないため、皆様の知見と世の中の動向を見て、次回にたたき台を示させていただく。</p>
金森委員	<p>前回の計画策定から、パリ協定の採択、約束草案で国の目標値が示され、2030年までに26%削減、業務部門では40%近い削減目標が示されている。市役所の計画においても、これらを踏まえた削減目標を設定せざるを得ないだろう。野心的な目標を設定してほしい。</p> <p>廃棄物関係の専門家にも、温暖化対策が重要であることを伝えていただければ考慮頂ける内容であると思う。</p>
新保会長	<p>人口が増えていく際に対応できることはあるのかどうか、人口一人当たりで減っていれば通用するのかどうか、事務局からご提示いただきたい。</p> <p>廃棄物処理施設の減価償却は20年で、既に十数以上経過しているが、どのように対応するのか。</p>
事務局	<p>機械を改良し延命化する。国の補助金をもらう条件に二酸化炭素5%削減があるため、機械の費用対効果とCO2削減を合わせて考慮していく。来年度から詳細設計を策定し、令和4年度に工期となる。</p>
田中部長	<p>補助金の条件は、機械の性能として5%以上削減しなければならないとあり、プラゴミ削減によるCO2削減は別の問題である。来年度に長寿命化総合計画を立てる中で、CO2の削減量については見えてくるだろう。</p>
横田委員	<p>プラ容器は洗浄すれば再生できるが、市民に「洗浄したプラを回収している」ことを強調してはどうか。</p>
田中部長	<p>容器包装プラスチックの洗浄については新たな設備が必要となるため、市民に洗浄を呼び掛けているが、意味が伝わっていない可能性もあるため、分別の徹底をしていかなければならない。一方、容器包装プラスチック以外のプラスチックは、クリーンセンターで手作業で分別後、残ったも</p>

	のは焼却せざるを得ない。
和田委員	第3章の推進体制の図は、点検評価の流れが分かるように矢印を入れてはどうか。
事務局	工夫する。
今井委員	地球温暖化は若い世代に対する影響が多いので、背景で子育て世代に対する責任について触れてはどうか。 また、目標値を国の指針に合わせるのであれば、基準年度も合わせた方がよいのではないか。 推進体制については、全体は外部委員や内部環境監査チームによるチェックがあるようだが、行動推進部門の中でPDCAは回っているのか。
事務局	係単位で環境に関する取組の目標を作成し、内部監査においてチェックしている。そのうえで、内部監査の結果を外部委員に評価いただいている。
和田委員	矢印があれば分かりやすい。係の取組を内部環境監査チームが確認し、それを外部委員が評価する。
新保委員	時間の流れを考慮されるとよい
(議題ウ) その他	
事務局	次回の審議会は6月の中旬から下旬を予定している。日程は決まり次第お知らせする。
新保会長	本日の議事は終了したので本日の審議会は以上とする。
閉会	